

令和元年6月10日現在

機関番号：17601

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K00756

研究課題名(和文) 専門性を生かす中学校家庭科教員支援 小中連携を推進するワークシートの開発

研究課題名(英文) Support for Junior High School Home Economics Teachers who Utilize Their Expertise: Development of Worksheet to Promote Cooperation of Primary and Junior High School

研究代表者

伊波 富久美(有澤) (FUKUMI, IHA)

宮崎大学・大学院教育学研究科・教授

研究者番号：90193630

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,600,000円

研究成果の概要(和文)：(1)家庭科における小中連携・一貫教育の実態として、小中学校の5年間を見通した計画の検討などが十分に行われていないことや打ち合わせの効率化が必要であることが明らかになった。

(2)小中連携を推進するための児童・生徒用「ポートフォリオ型ワークシート」及び小中高校の指導事項を一覧できる授業者用「指導記録用紙」の開発を行った。

(3)「ポートフォリオ型ワークシート」を活用した授業を実践し、分析した結果、小学校での学習内容の定着状況の把握や、「指導した」とする内容と「学んだ」とする内容とのズレの把握・修正が可能になるなどの有効性が示された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

小中連携を支える具体的な手立てを開発し、その有効性を示したことによって、中学校に接続する複数の小学校間の学習内容や学習環境等の違いをふまえた授業構成が可能になった。

また、それらの有効性が示されたことによって、小中連携を図るなかで、中学校に家庭科教員が配置され小学校の授業を兼担することによって、小中学校ともに専門性の高い家庭科授業が保障され、中学校家庭科教員が核となった共同研究も向上させることが可能であることが示された。

研究成果の概要(英文)：(1) We clarified the actual situation of cooperation of elementary and junior high school in home economics education.

(2) A worksheet for promoting cooperation between elementary and junior high schools and a record sheet for instruction were developed.

(3) As a result of practicing and analyzing the class which used the worksheet, I could grasp the fixed situation of the learning contents in the elementary school. In addition, it became possible to grasp and correct the gap between the contents taught and the contents learned.

研究分野：家庭科教育

キーワード：小中連携 家庭科教員 ポートフォリオ ワークシート 指導記録用紙 家庭科

1. 研究開始当初の背景

小中連携に関する研究は多数行われているが、研究開始当初、家庭科教育においては、小中の教育内容の系統性の検討や食育カリキュラムなどの研究が中心であった。また、継続的に家庭科で学習した内容や生活実態に基づいた授業を可能にするとともに、中学校と接続する複数の小学校との連携や共同研究の推進を可能にするワークシートや授業記録シートの開発等についての研究もまだなされていなかった。

他方、中学校家庭科教員の配置の問題が指摘され、小中連携によるその解消の方向性は示唆されているものの、それを推進するための具体的な方法の開発や授業実践の検証を行うまでには至っていなかった。

2. 研究の目的

本研究では、家庭科教育における小中連携の実態をふまえ、5年間を見通した小・中学校での継続的な指導を可能にするとともに、同じ中学校に進学する複数の小学校との連携や共同研究にも活用可能なワークシートと授業記録シートの開発を行い、それらの有効性を検証することを目的とした。

3. 研究の方法

(1) 小中連携校における家庭科授業担当者への調査

家庭科の小中連携における運営上の課題を明らかにした先行研究(河原.2014)の基礎データをふまえた上で、児童・生徒用ワークシートおよび教員用の授業実践記録シートに包含すべき項目を検討するため、宮崎県および九州各県における家庭科授業担当者への小中連携・一貫教育に関するアンケート調査および聞き取り調査を実施した。

(2) ワークシートおよび授業記録シートの開発

(1)の調査結果をふまえた上で、児童・生徒用ワークシート(「ポートフォリオ型ワークシート」)および教員用の授業記録用紙(「指導記録用紙」)の原案作成を行なった。

その原案に、児童・生徒及び家庭科授業担当者が試行的に記入することにより、それらの課題を把握し、改善を行った。

(3) ポートフォリオ型ワークシートを活用した授業実践と検証

2017年に、開発した「ポートフォリオ型ワークシート」(以下、P型シートと略す)を用いた中学校・住居領域の授業を実施し、その有効性について検証した。

(4) 「指導記録用紙」を用いた小・中学校及び高校の連携

各学校種の家庭科授業担当者が記入した「指導記録用紙」を次の校種に申し送るなど異校種間で共有し、その有効性を検証した。

4. 研究成果

(1) 家庭科における小中連携・一貫教育の実態と課題

宮崎県においては、家庭科授業担当者の家庭科免許の取得率は必ずしも高くなく、家庭分野の授業以外に、特別支援学級や他教科を担当しており、専門性が十分に活かされていない状況にあった。また、家庭科教育での小中連携教育及び小中一貫教育の取組が実施されている学校の割合は19.1%にとどまっていた。

さらに、小学校と中学校の5年間を見通した目標及び年間指導計画の検討を行っているのは12.5%であり、5年間を通じて指導内容が見通せる資料作成が求められた。また、連携上の課題として、「打ち合わせ等の時間が持ちにくい」などが上がっており、打ち合わせの効率化や児童生徒の情報を共有できる資料作成が必要であった。

(2) 児童・生徒用「ポートフォリオ型ワークシート」の開発

家庭科における小中連携の実態及び先行研究(堀,2013)をふまえて、以下の3つの視点から、図1に示したような児童・生徒用のP型シートを開発した。

小・中・高校の円滑な接続を可能にする “指導した” とする内容と、“学んだ” とする内容とのズレの把握が可能 学習内容と“自己とのかかわり” に学習者自身が目を向けられる

図1 題材「快適に住まう」での「P型シート（中学校用）」抜粋

【表面】

<p>快適に住まう</p>  <p>() 中学校 () 年 () 組 () 番</p> <p>氏名 ()</p>	<p>〔B：学習を終えて〕</p> <p>Q. 快適に住まうために気をつけたい（気をつけている）ことを書いてみよう。</p>
<p>〔A：学習を始めるにあたって〕</p> <p>Q. 快適に住まうために気をつけている（気をつけたい）ことを書いてみよう。</p>	<p>〔C：学習を振り返って〕</p> <p>Q. AとBを比較して、気づいたことや考えたことはありますか？ また、もっと調べてみたいことがありますか？</p>

【裏面】

<p>1. 住まいの役割</p> <p>本日の私のキーワード</p> <p>〇特に大切だと思ったことや印象に残ったこと</p>	<p>2. 共に住まう</p> <p>本日の私のキーワード</p> <p>〇特に大切だと思ったことや印象に残ったこと</p>	<p>3. 住まいの安全対策</p> <p>本日の私のキーワード</p> <p>〇特に大切だと思ったことや印象に残ったこと</p>	<p>4. 災害への備え</p> <p>本日の私のキーワード</p> <p>〇特に大切だと思ったことや印象に残ったこと</p>
<p>5. 災害への備え②</p> <p>本日の私のキーワード</p>	<p>6. 室内の空気調節</p> <p>本日の私のキーワード</p>	<p>7. 住まいと音</p> <p>本日の私のキーワード</p>	<p>授業に関連した実践</p>

*シートは一部を拡大表示

(3) 授業者用「指導記録用紙」の開発

小・中・高校の学習指導要領および学習指導要領解説の指導事項を分析し、小・中・高校の指導事項を一覧できる表を作成し、指導の有無をチェックできる欄を設定した。さらに、授業者が相互に送りしたいことを記入できるように「既習か否か確認したい事項」や「特記したい既習事項」の欄も設け、「指導記録用紙」の原案とした。実際に小・中・高校の家庭科授業者がそれらへの記入を行い、その評価をふまえて原案を改善し、下表に示した授業者用「指導記録用紙」を作成した。

表4 改善後の授業者用「指導記録用紙」

授業者用「指導記録用紙」〔住生活〕			学校名			学年			家庭科授業者名		
指導状況を、3段階でご記入ください。 ◆指導した・・・・・・○ ◆重点的に指導した・・・・◎ ◆指導していない・・・・(空欄)			小学校			5年					
			小学校			6年					
			中学校			1年					
			中学校			2年					
			中学校			3年					
			高等学校			年					
小学校 (平成23年度入学生)			中学校 (平成29年度入学生)			高等学校 (平成32年度入学生)					
学習指導要領	学習指導要領解説	注	学習指導要領	学習指導要領解説	注	学習指導要領	学習指導要領解説	注			
整理・整頓	分類の仕方 収納の仕方		家族の住空間	住空間と生活行為のかかわり 共同生活の空間 個人生活の空間		住居の機能	生活の場としての住居の条件 ライフステージに応じた適切な住居の計画や選択 耐久性の高い住宅				
清掃の仕方	汚れの種類 汚れに応じた清掃の仕方 汚れと時間の関係 住居用洗剤の使い方(表示) 多様な清掃用具の使い方		住居の機能	自然から保護する働き 心身の安らぎと健康を維持する働き 子どもが育つ基盤としての働き		住居と地域社会のかかわり	地域の住環境 地域施設との関係 集まって住むためのルール				
暑さ・寒さ	室内の温度や湿度の調節 室内の空気の流れの調節		安全を考えた室内環境の整え方	室内を安全で安心できる状態にする必要性 家庭内事故の原因と防ぎ方 自然災害への備え		安全で環境に配慮した住生活	防火・防犯・耐震等の安全性 日照、採光、換気、遮音、温熱・空気環境 地球環境への配慮 高齢者や障害者等に配慮したバリアフリー住宅				
通風・換気	夏季にすずしく過ごすための通風の仕方 冬季における汚れた室内空気を入れ換えるための換気の方法		快適な住まい方	室内の空気調節(化学物質、一酸化炭素、カビ、ダニ等による室内空気の汚染) 快適な生活に及ぼす音の影響 快適さの感じ方(個人差がある)							
採光	適度な明るさを確保する必要と方法 室内の明るさが異なる条件										
①使用した教材等 ^{※1}			①使用した教材等 ^{※1}			①使用した教材等 ^{※1}					
②製作物 ^{※2}			②製作物 ^{※2}			②製作物 ^{※2}					
③その他(小学校から中学校・高校へお伝えしたい事項 等)			③その他(中学校から小学校・高校へお伝えしたい事項 等)			③その他(高校から小学校・中学校へお伝えしたい事項等)					

※1 「使用した教材等」については、授業中に使用した視聴覚教材(例えば、ビデオ「○○○(△△出版)」)や教科書以外に使用した資料名などを紹介ください。
 ※2 「製作物」については、キット使用の有無もお知らせください。

(4)「ポートフォリオ型ワークシート」を活用した授業実践の成果と課題

中学校・住居学習において、P型シートを活用することにより、以下の有効性が示された。

中学生が、小学校で学習した内容にどれほど意識を向け、どのように定着しているのか確認し、中学校での授業を構成する上での参考にすることが可能になった。

題材の各時間に記入させた「キーワード」の記述は個々で異なり、学習者の授業把握の多様性が示され、題材全体、および各授業時間の内容をどのように捉えていたのか、クラスの実態を短時間で総体的に把握するのに有効であった。

「キーワード」とともに、「印象に残ったことや大切だと思ったこと」の記述を絡めてみていくことで、各時間の内容把握の確認や教師の意図とのズレの把握及び修正が可能になった。

他方、授業担当者によって異なる題材構成や時間配分に柔軟に対応できるP型シートが必要であり、独自の題材構成を容易に反映させられる電子ファイルでのP型シートの作成及び共有などが今後の課題といえる。

<引用文献>

堀哲夫.(2013).教育評価の本質を問う一枚ポートフォリオ評価のOPPA.東洋館.

河原国男.(2014).小中一貫・連携教育の実践的研究.東洋館.

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計6件)

伊波富久美.家庭科の授業における学びの過程 “自分にとっての意味”の確定 .日本家庭科教育学会誌.査読有り 61巻,2019.203-214

伊波富久美、福良維素子、山村季代 他 . “ポートフォリオ型ワークシート”を活用した小・中・高校の連携に向けた試み-中学校・住居学習を中心に - .宮崎大学教育学部紀要.査読無.91巻.2018.1-10.

伊波富久美,山村季代.小・中・高校の学びをつなぐ「指導記録用紙」と「ポートフォリオ型ワークシート」の開発.-住生活の内容を例として-.宮崎大学教育学部紀要 .査読無.91巻.2018.11-25.

黒光貴峰,伊波富久美他.鹿児島県の家庭科教育における小中連携教育及び小中一貫教育の現状と課題 家庭科教育担当者に対する実態調査を通して .鹿児島大学教育学部研究紀要.査読無 69巻.2018.101-112.

山村季代,伊波富久美他.宮崎県における小中連携教育及び小中一貫教育の現状と課題 家庭科教育担当者に対する実態調査を通して .宮崎大学教育学部紀要.審査無.89巻.2017.13-21.

岡陽子・大島和子・伊波富久美他.佐賀県における小中連携教育及び小中一貫教育の現状と課題.佐賀大学大学院学校教育学研究科紀要.査読無.1巻.2017.3-12.

[学会発表](計6件)

松本仁美,伊波富久美.高等学校における食事バランスガイドを活用した授業実践.日本家

庭科教育学会九州地区会第 21 回研究発表会 .2018.

山村 季代,伊波富久美,大島和子他. 宮崎県の家庭科における小中連携及び小中一貫教育の実態と課題 家庭科教育担当者に対する実態調査を通して . 日本家庭科教育学会九州地区会第 20 回研究発表会 .2017.

黒光貴峰,伊波富久美,大島和子他. 鹿児島県の家庭科における小中連携及び小中一貫教育の実態と課題 家庭科教育担当者に対する実態調査を通して . 日本家庭科教育学会九州地区会第 20 回研究発表会 .2017.

手塚美代子,岡陽子,伊波富久美他 . 佐賀県の家庭科教育における小中連携及び小中一貫教育の実態と課題. 日本家庭科教育学会九州地区会第 19 回研究発表会 .2016.

松園美和,岡陽子,伊波富久美他. 福岡市の家庭科教育における小中連携及び小中一貫教育の実態と課題. 日本家庭科教育学会九州地区会第 19 回研究発表会 .2016.

山村季代,伊波富久美. 小・中・高の学びをつなぐ授業記録用紙とポートフォリオ型ワークシートの開発. 日本家庭科教育学会 2016 年度例会 .2016.

〔図書〕(計 1 件)

中西雪夫,小林久美,貴志倫子,伊波富久美他. 学術図書. 小学校家庭科の授業をつくる .2017.211 (48-63,88-91)

〔その他〕(計 1 件)

日本家庭科教育学会九州地区会小中連携共同研究チーム(岡陽子・伊波富久美他).新学習指導要領における家庭科、技術・家庭科の学習評価 小・中・高における資質・能力ベースの評価 .2018.